

2度の産休・育休を取得して



飯澤 早苗
財務部経理課 主任

産休・育休取得期間

1回目：約1年4ヶ月

(2018.1-2019.4)

2回目：約1年4ヶ月

(2021.1-2022.4)

出産

2018.2 (第1子)

2021.2 (第2子)

【産休・育休に入るまで】

つわりが辛くなってきた8週～10週頃から、仕事にも影響する可能性があると思い、最初に上司、その後担当内に報告しました。担当内にすでに子育て中の方もいて、普段から話しやすい雰囲気だったこともあり、早めに伝えられたのかも知れません。予定日がわかり母子手帳がもらえると産休育休期間を相談して決めることになり、規定等を調べて計算して希望を伝えました。1人目も2人目も同じ部署（キャリアサポートセンター）で休みましたが、いずれも代替要員がなかなか決まらず、事前の引継ぎが直接できない可能性もあったため、丁寧に引継書や手順書を作成する他、メールを担当内に共有するとともに、できる限り業務を前倒して済ませるよう調整を行いました。

事務手続きは、総務担当の方が書類一式を送ってくださり、記入方法まで丁寧にわかるよう付箋等で示ってあったので、あまり記憶に残っていないほどスムーズに済んだと思います。

【産休・育休に入ってから】

1人目の時は、体重管理に厳しい病院だったため、出産準備用品の買い物を含め積極的に動き回るように生活し、妊婦検診の他にも月に1～2回開催される病院の母親学級に参加して出産育児に関する情報を集めました。また、出産後は日中1対1で子どもと過ごす初めての育児への不安もあったので、里帰り終了後にBP（ベビープログラム）に参加して、同じような状況のママ友と話す機会を作りました。また、各所の支援センターや子育てサロンにも足を運び、子どもを遊ばせつつ、自分も話や相談をするといった外に出る過ごし方が多かったように思います。

2人目の時は、新たに妊婦の無料歯科検診が受けられるようになり、それをきっかけに出産直前まで毎週歯医者に通っていました。第一子は短時間保育となり送迎もあったので、1人目の時と比べてあっという間に1日が過ぎる感覚でした。

復帰の1週間前頃には、慣らし保育で時間ができたタイミングで職場に顔を出し、復帰にあたっての引継ぎや手続きの確認を行いました。人事異動で人が代わっていることもあるので、自分の気持ちの準備のためにも、挨拶に顔を出しておくと思えます。

【産休・育休が明けて】

1人目の時は順調に復帰できたものの、2人目の時は復帰直後から週に1回のペースで子どもが熱を出し、コロナ禍だったこともあり、発熱の度に受診して検査を受け、熱が下がって1日経過をみてから登園となると、最初の2～3カ月は業務がままならず、実家の協力も含め周囲の支えによって成り立っていたと思います。同じ部署での復帰だったこともあり、業務の見通しが持てたので、早め早めの準備をし、優先順位をつけて急ぎの業務を残しておかないよう気をつけていました。それでも窓口対応など突発的な業務はある訳で、同じく子育て中の同僚や上司が常に周りにいて理解があったからこそ許された、本当に恵まれた環境だったと思います。当時のキャリアサポートセンターの皆さん、本当にありがとうございました。

【最後にひとこと】

1人目は申請したものの認可保育園に入れず、3年間山形大学の保育所でお世話になりました。大変手厚く一人一人をみてくださる、とてもおススメの保育所ではあるのですが、2人目の入園を期に、2人そろって認可保育園に入りたいと思い市役所に相談したところ、育休の長さもポイントに関係することを初めて知り、復帰の時期を早めたということもありました。保育園の見学や入園のための情報収集も早めに行っておくのがおススメです。